

平成 28 年度 特定非営利活動に係る事業計画書

事業実施の方針

◆里山保全部門

*管理場所グループ

- ・根戸城址を中心とする里山、田畑、水辺とその環境は今まさに貴重な存在になっている。この環境を活用、保全し後世につなげていくことを目的とする。道路清掃から始まり、根戸城址、ミカン山、ハス田の管理、さらに水稲、そばの栽培に力を入れる。
- ・遊休地を使っての景観植物の栽培など他グループとの連携をもって年間を通して活動を行う。

*個別活動グループ

- ・**里山農教室**を、有機生態系農業を学び研究し実践する場として開講する。また、受講生のなかから、有機生態系農業の母胎たる里山環境の保全活動の担い手を育成することを目指す。
チームリーダーの担い手が 4 人から 2 人に減ってしまったが、スタート来好評だった 4 チーム制を継続し、管理する圃場をチーム毎に割り振ることでそれぞれの特色を出し合いスキルアップを目指す。同時に作付け作物を厳選し、無理なく充実した講座となるように工夫するとともに、新たにフリースペースを設けてチーム毎に作物を選んで栽培にチャレンジしてもらう。
継続して行っている冬水田圃における水稲栽培、ソバ栽培については、質の向上と収量の向上とを目指す。また脱穀や選別作業では足踏み式脱穀機や唐箕などの昔の農機具を使うことで現在のコンバインの基本を理解する
- ・**特別コース**においては、年間 10 回の会合を開き、遠藤理事長のもと、自ら有機栽培を実践し学習する。各自約 10 ㎡の圃場の栽培計画と課題を設定し、年末に結果報告し、評価、考察する。6 月には茨城県阿見町の有機栽培「のらつくす農園」を訪問し、見学する予定である。
- ・**ハーブ部会**は農教室の開講日に作業を行う（月 1 回程度）。発足して 4 年目になり、湿地に適さないハーブについて改良を行う。「ハーブで心身共に健康に」をモットーに、日常に活かせるよう工夫する。
- ・**竹教室部会**は、第 2 期生が初年度の活動をスタートさせる。
- ・**養蜂部会**は根戸城址で多くの巣箱を維持・管理するとともに、部会員がそれぞれの自宅等で日本ミツバチを飼育できるように援助する。
- ・**野菜ソムリエ部会**は、数名はさらに上級の資格取得を目差す。全員が野菜の知識をさらに広めるとともに、料理の手法を取得し、会員によりおいしく野菜を食べてもらえるよう、指導できるようにする。

◆遊休農地活用部門

*遊休農地対応グループ

- 船戸圃場、三角田圃では景観作物を栽培して、農地を保全すると共に手賀沼周辺の景観と環境を守る活動を行う。
- ・**船戸圃場**では 5 月にひまわりを播種して 7 月に公開イベントを開催、その後 8 月に種を取る。
また 10 月に菜の花を播種して 3 月に公開イベントを開催する。
 - ・**三角田圃**では 5 月にひまわり、10 月に菜の花を播種し、市民に景観を楽しんでもらう。
 - ・**船戸圃場**と三角田圃の景観作物栽培は我孫子市の「手賀沼沿い農地活用補助金制度」の申請を行い実施する。
 - ・**宮前沼圃場**は地主さんのお手伝いで耕耘管理し、来年にむけて景観作物を栽培する準備をする。

新規就農者支援グループ

- ・新規就農希望者が現れた場合は、トラストで研修を行ない、市と協力して農業者として自立できるよう援助する。

◆事務局部門

事務局グループ

- ・各事業部門が存分に活動できるようバックアップする。
 - ・根戸新田地区の遊休農地の保全にむけて、手賀沼トラストが主体となって取り組む活動をサポートするとともに、手賀沼ファームなど他団体との連携を強め保全活動のハブとなるべく努力する。
 - ・地域住民・地域諸団体との連携を強め、手賀沼トラストの活動をいっそう理解してもらい、農産物の購入・イベントへの参加などを呼びかける。
 - ・トラスト正会員、協力会員、メルマガ会員の募集を積極的におこなう。
 - ・今年末に新たに1町歩以上の農地を託されることになるので、米づくり、景観作物の栽培にむけての体制を構築する。
 - ・現物支給制を拡大し、トラスト通貨「トラス」の導入を展望し、会員がみずから作ったものを消費することがそのまま里山保全につながる体制の確立を目指す。
 - ・安全管理、リスク管理に努める。
 - ・農業機械講習会の実施などをおして、機械を安全に使い、効率的に作業ができる体制を作りだすよう努める。
- *定期預金200万円のうち100万円をJAへの出資金（昨年度の配当1%）として運用する。

交流グループ

- ・会員相互並びに一般市民との交流の場として、早苗饗（さなぶり）、案山子祭り、そば祭り、餅つき大会などを実施する。
- ・根戸城址の舞台を使い、落語会やコンサートなどを行う。
- ・会員同士、あるいは他団体、行政、事業者と自然環境や農について学び、情報の共有化を図る。特に柏市市民活動フェスタ、我孫子市民活動メッセ、消費生活展への参加や、顧問契約を結ぶ小松崎茨城大学農学部教授の講座等を開催する。